

異常な長時間労働と格差社会

長距離トラック運転手の仕事の中で 痛感

大学の寮の親友から、トラック運送が日本社会に果たしている重要性を聞き共感したのむら説さんは、卒業後、長距離トラックや海上コンテナを積載した大型トレーラーの運転手として計6年、全国に積み荷を運びました。一日3時間の睡眠しかとれず眠気とのたたかいでした。深夜悲惨な交通事故の現場に何度も遭遇し、GDP世界第3位の日本の働き方の矛盾を痛感しました。



何でも自分の目で見て、実感して行動！この生き方を貫いて区民の願いを区政に届けます

日本共産党

のむら説

海外での生活4年
世界の矛盾を実感
赤旗記者として10年間、国会から
中東まで

30歳を前に、世界を直接見て、知りたいと決心し運送会社を辞めて、カナダとオーストラリアで4年間働きながら生活。途上国出身の友人ができ、日本とは比較にならない貧しさと南北格差を実感しました。

世界の矛盾を実感し、日本の社会進歩と自身の人生を重ね合わせて生きていきたいと決意して帰国、赤旗で担当した国会では、議場の中まで戦争法、共謀罪に反対するコールが耳に届き、「いま自分が国民とともににあることを実感し、この仕事に誇りを感じた」と振り返ります。

中東アラブの取材も担当。イラク戦争では

アメリカの無人爆撃機による無差別爆撃で、女性や子どもを含む数万人もの犠牲者が出ました。(4面も参照)



人間を大切にする社会めざす
日本共産党

たたかいで歴史と未来への展望に
感動して入党

もともと両親が日本共産党員（お父さんは現在愛知県刈谷市議）の家庭に育ったのむら説さん。学生の頃から赤旗や書籍に触れ、反戦平和、「国民が主人公」をつらぬいてたたかってきた日本共産党の歴史や、人間の自由と個性が全面的に花開く未来社会の展望に共感していました。トラック運転手として働いていた25歳の誕生日に入党しました。



署名をさっそく
国会に提出

左から のむら説さんと、吉良よし子
参院議員、笠井亮衆院議員、谷川智行
党都副委員長
(17年12月20日 国会にて)

3人の子の
パパとして

暮らしの足元から
平和を守り政治を変えようと決意

何でも自分の目で見て、実感して行動してきたのむら説さん。練馬に住み、父親になって6年、共働きの妻とともに、保育の質向上や待機児問題にも取り組んできました。



練馬区では、認可保育園に希望しても入れない子どもがいまだに実質800人以上もいます。区立保育園の民間委託など、安上り第一で区民の要望軽視、巨大道路建設優先の区政が進められています。いまこそ、暮らしの足元から政治を変えなければーのむら説さんは、いま、区政の改革に新たな決意を燃やしています。

「のむら説」の
名前の由来は

「説」という名前を付けたのはお父さん。敬愛する女性運動家の羽仁説子さんの「説」からだそうです。

